

気になる子どもの手と道具の使い方 ～その子の発達段階に合わせた支援とは～

やまだリハビリテーション研究所
作業療法士 山田 剛

1. 作業療法士の戦略の視点

- ① できないこと、できること、伸ばしたいこと、できれば減らしたいこと
- ② 「なぜ？」を考える事
- ③ 「仮説」を考える事
- ④ プログラムを考える
- ⑤ 多職種連携する
- ⑥ 解決できないこともたくさんある

2. 解決するための手段

- ① 正常発達を参考にする
- ② 環境に働きかける
 - オモチャや課題の選択
 - 道具の選択
 - 机やいすなどの姿勢の選択

3. 正常発達を考える

- ① 頭尾の発達
- ② 近位から遠位への発達
- ③ 握りの発達

4. 握りの基本的な練習は3指握りを目指す

- ① 筆記道具
- ② 食事道具

どちらも3指握りが出来るようになることを目指そう

その延長にお箸の操作があります

5. できない理由は何かな？

- ① できない理由は様々、原因に応じた対策を考える
 - 矯正的に持ち替えても意味が無い
- ② 異常な筋緊張
- ③ 発達の遅れ、未成熟
- ④ 経験不足
- ⑤ 視知覚の問題

⑥ 感覚の問題

6. 課題を段階付けるという視点

- ① 正常発達を考慮した段階付け
- ② 成功体験を増やす段階付け
- ③ スモールステップの重要性
- ④ 待つことも必要

7. 評価、プログラムを実践するのに必要な観察の視点

- ① 観察することが最も大事な評価になります
- ② たくさんの子供たちと接することが一番のトレーニング
- ③ 比較することが重要です

「あの子にできて、この子はできない」どこが違う？

8. いつもうまく展開できるってことはない

- ① 1週間に1回しかハッピーがやっこないこともある
- ② ゆっくり育つ子もいます
- ③ 変化を見つける「目」を持つことが必要

9. 基本的には個別的な対応が必要です

- ① 取り組む課題によっては集団が効果的なこともある
 - ソーシャルスキル
- ② 手の課題は個別的対応が多くなります

10. リハビリテーションは魔法ではありません

- ① 変化することもあれば、効果がないときもある
- ② だけど諦めません

11. 多職種連携の必要性

- ① 教員との連携は超長期視点として必要
- ② 楽しいプログラムの作成には保育士の視点が必要
- ③ リハビリテーション的視点はセラピスト